

抗議文

京都市長 門川大作 様

私たち大宮消防出張所の存続を求める会は、市長が、住民の不安や心配の声を押し切って大宮消防出張所を、この10月1日に廃止するとしていることに強く抗議します。

京都市は、大宮消防出張所の廃止後、周辺消防署・所の活用、体制強化をしておりますが、議会で大宮消防出張所廃止後の周辺消防署・所の人員体制は大宮消防出張所人員相当分（15人程度）の職員数が減少すること、大宮消防出張所エリアへの消防車の到着時間は「1分が3分になる場所もある（7月18日総務消防委員会）」ことなどが明らかとなりました。これでは、木造住宅密集地に暮らす住民の安全は大きく後退することになり受認できません。

また、消防力が後退する問題の指摘に対して、京都市は、「小型水槽車を運用する消防隊を配置する」（市民新聞3月15日号）としていますが、これは全市的な方針を説明しているだけです。そもそも、大宮消防出張所には小型水槽車が配備されています。それを廃止しながら、住民の安全を守るなどと強弁し、住民を欺くことは許されません。

このような重大な問題について、京都市は広く住民に開かれた説明会を主催し説明を尽くしていません。住民への情報公開を行わず、住民合意に基づかない行政運営が行われていることは断じて容認できません。

その上、予定を前倒して大宮消防出張所を廃止することは暴挙であり撤回すべきです。

2017年9月28日

京都市上京区大宮通り五辻上る

芝大宮町28

大宮消防出張所の存続を求める会

代表 古武 博司